

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人 香徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岐阜県関市平成通2丁目7番12号		
自己評価作成日	平成29年10月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kani.tru&amp;sl.gvosyoCd=2170200345-00&amp;PfOfCd=21&amp;Ver:si.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kani.tru&amp;sl.gvosyoCd=2170200345-00&amp;PfOfCd=21&amp;Ver:si.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と利用者様と共に、穏やかな生活を過ごしていただける施設を目指しています。最期を安らかにいかれるよう、家族と共に看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との面談の機会を個々に持つように日時を設定し定期的に実施している。家族の面会時以外にも利用者、家族の意見や要望を聞き、日々の介護に活かし事業所の運営に反映させている。一般浴用と機械浴用の浴槽があり利用者の状態を確認し適切な浴槽を選択して、会話をしながらゆっくりと入浴が楽しめるようにしている。利用者の希望するかかりつけ医と歯科などの専門医の訪問診療がある。終末期の看取りは、本人や家族の意向を踏まえ、安心して最期を迎えられるように支援をしている。災害対策について法人の他の事業所や系列の病院との連携を図っている。協力病院への緊急避難の実績もあり、災害時の安心感となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『わたしたちはすべてのかたに喜んでいただけるヘルスケアを提供します』 ・利用者が満足できるサービスを提供します	理念を朝礼で唱和し介護の中で理念に立ちかえるようにしている。管理者は理念に沿った事業所の目標を年度毎に設定し、職員はすべての利用者に喜んでいただけるサービスの実践を互いに確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに参加。 地域の小学校の運動会に参加。 地域の保育所の定期訪問。 事業所の行事の呼びかけ。	自治会などの地域の行事に積極的に参加するようにしている。事業所で月毎にすいか割りなどの行事を企画し、回覧板などで案内して地域の人々の参加を促している。しかし、まだ地域との結びつきが弱い面もある。	外出の機会に住民と互いに声を掛けあったり、地域の講習会などに積極的に参加したりして地域との結びつきをより深いものにされることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、グループホームはどのような方が入居できるのか等の質問に応じ、認知症の理解を深めている。 小学校との交流により福祉教育を目指す。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の利用者様状況や施設における活動の報告し意見を聞き、地域支援の向上につなげている。	高齢福祉課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員の参加があり、家族会との同日開催により多数の家族の参加もある。避難訓練の方法や参加に対する意見が出され、事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼。 清掃ボランティア、市長の訪問等。 災害時の連絡。	市の担当者と毎月定例的にメールで事業所の現状報告をしている。事業所からの相談など、双方向での意見交換がある。災害時には市から確認の連絡が入るなど、常に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の方と相談しながら、安全・安心の視点でケアに取り組んでいる。 職員と共に外出できるよう配慮している。	身体拘束は行っていない。言葉による精神的な拘束には特に注意をしている。安全安心のため家族から身体拘束の要望があってもしない方向で説明している。利用者が外に出たいとの意思表示をした時には職員が寄り添って一緒に外出をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い防止に努めている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村からの成年後見制度の学習会の案内を職員に伝え、興味を持ってもらう。研修で施設で活用する成年後見制度を学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談時に書類を提示し、説明を行い疑問点はその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見についての意見箱を設置している。苦情窓口の提示を書面で説明している。ご意見をカンファレンスで共有し対策を取っている。	利用者・家族とは家族会などで定期的な話し合いの場を設けて、意見、要望を聞き、日々のケアや運営に反映させている。「マットを変えてほしい」「入歯をしっかりとはめてほしい」などの意見要望があり、改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度、全体カンファレンスや委員会活動時に意見や提案等を取り入れている。半年に1回の人事考課面談を行っている。	管理者は日常業務の中で職員個々に意見を聞いたり、半年毎に個人面談の中で職員の要望を聞いたりしている。事業所の委員会活動や全体会議の中で職員の意見を検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、目標を持って働き、半期に一度の人事考課面接を実施している。新人介護職員に対して、研修会を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員教育プログラムをもとに、新入職者・中途入職者研修を実施し、入職後はコミュニケーション会等実施している。また、研修会等がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関市の連絡会議に参加する等、ネットワーク作りに努力している。関市内グループホーム大運動会への参加。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より、どのような生活環境であったかを聞き取り、本人が不安なく生活できる様に要望をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや、本人・家族にとってどのようなことが不安なのか、どうしたらいいのかをよくお聞きし、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談時に、現状をよくお聞きし、アセスメントし、他事業所相談、紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所で手伝おうという気持ちのある方は手伝ってもらい、一緒に洗濯物等をたたんでもらったりしている。暮らしの中での会話を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時や外出時におしゃれをたしなむ方に対して積極的に家族に関わって頂くよう支援している。ご家族に、ご利用者様の日頃の生活の様子をお伝えしている。また、家族会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所時には居室にてゆっくり対面していただけるようお茶をお持ちしたりして和んでいただく。時には外出の機会を設け、馴染みの場所へ行っている。	個別面談時に馴染みの人と場を聞き、申し送りノートに記載し職員間で共有している。観音や神社、喫茶店に行きたい等の情報を、外出先の選定に活かしている。喫茶店は家族の協力のもと、職員も同行して関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのことをよく把握した上で、それぞれに良い関係ができるよう配慮している。利用者同士の話ができるよう、座る席など配慮を行っている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、他施設への訪問を行ったりし状況を把握したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような希望があるのか尋ね、本人にとって厳しい場合は家族の想いを聞き治うように検討している。	日々の生活と介護をする中で利用者からその思いや意向を聞いている。言葉による意思表示が困難な利用者の場合は仕草や態度から汲み取るとともに、家族からは利用者の気持ちをたずねて聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれた場所、生育歴等を尋ねたり、今に至る迄の環境をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝や夕方のミーティングで職員が情報を共有し、一人ひとりのケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人についてのアセスメントをしっかり行い、定期的にモニタリングを行っており、ケアプラン作成に努めている。	入居時に暫定介護計画を作成し、家族、主治医や訪問看護師の意見を取り入れ、担当者会議で検討し、介護計画を作成している。状態変化時は、随時見直している。サービス内容に沿った記録を残し、毎月モニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを開催し、情報共有、職員間の報告、連絡、相談をしっかり行い、ケアプランにつなげている。ケアプランの内容を日々記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出困難で理容等など御希望の方については、理美容店と交渉し来所していただいている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、幼稚園交流、民生委員の来所など、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望されるかかりつけ医と連携し、相談しながら一人ひとり対応している。	かかりつけ医は利用者個々に異なり、訪問診療を定期的に受けられるように支援している。専門医などへの受診は家族に依頼している。結果についてはその都度、家族から報告を受け情報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があった場合には、訪問看護師に相談し適切な処置がとれる体制にしている。また、日頃の様子を定期的に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、地域連携室と状況把握を行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回面談時に施設の方針を説明し、終末期のあり方を家族と話し合い、書面で提示してもらっている。その方針にしたがって支援している。	入居時に、重度化の時の支援の方法を利用者、家族と話し合っている。重度化した場合は、その関係者が事業所での対応方法などを話し合い、家族の気持ちを大切に支援に取り組んでいる。職員の看取りに関する教育を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、その都度体得するよう努めていく。(BLS研修会)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも災害時の話し合いもを行い、カンファ等で職員に伝える。地域住民を巻きこんだ避難訓練を計画している。グループ内連携にも力を入れている。	地域の住民にも参加してもらい、二人体制での夜間想定を含めた、火災、地震、台風、水害に対応した避難訓練を実施している。台風警報発令時に地域の協力のもと、緊急避難場所へ1泊した事例がある。	

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪問時は必ずノックし、声かけをしながら訪室する等気をつけている。	行事や「ゆったり通信」への写真の掲載、居室の氏名の掲示について利用者の了解を得ている。職員は笑顔での対応、声掛けの姿勢、トイレのドアの開閉時、入室時のノックと声掛けに注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何か希望された時は、希望に沿うように配慮し、自己決定できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日のリズムを把握した上で、希望に沿う事ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	タンスより洋服を選んでいただく等声かけをしている。ご家族のニーズも聞き、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や体調を配慮し、食事前後の台拭きなどの食事の準備・片付けをしている。	利用者は、できる範囲で、食事の準備と後片づけを手伝っている。食事前に声掛けし、献立を利用者毎に説明し、会話を大切に楽しみながら食事をしている。何が食べたいかを聞き、献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カルテにて摂取量を記録し、状態把握ができるようになってきている。好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを実施。その人に応じた口腔ケアを行っている(口腔ケアティッシュやスポンジなど)。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握するように努めている。ケア変更時には、検討会を実施し、ご家族に意見を求めている。	排泄チェック表を参考に排泄パターンを確認しながら、その時々の利用者の様子により、声掛けをするかどうかの判断をしている。必要な場合は、さりげなく耳元でそっと声掛けをして、トイレへ誘導をするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に牛乳を提供するなど個別的なケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽が色々あるので、その時により本人の希望に沿えるよう入浴していただく。	利用者の状態により一般浴と機械浴を使い分け、入浴をゆっくり楽しめるように支援している。寒いからと入浴をいやがる利用者には脱衣場の温度を調節したり、マットを多く敷いたりして声掛けのタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況を把握し、日中でも横になれるよう声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が管理のもと薬剤情報が閲覧できる状態であり、主治医とも連携し、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業でお手伝いしていただける方は積極的に参加していただいたり、ボランティアの方がみえた時には参加してもらえるように声をかける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望により、一緒に外へ散歩している。ご家族にご本人の意向をお伝えし、外出の機会を作るなど支援している。	利用者の要望を聞き、職員からも声掛けをして、事業所の近隣を散歩している。喫茶店にも一緒に出かけている。桜や紅葉、地域の祭り、関市のグループホームの運動会などにも希望する利用者と職員が一緒に出かけている。	

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について個別に対応している。買い物時には、ご自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして欲しいという御希望の方には、電話をかける等対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花がある時は季節の花を飾ったり、ちぎり絵などで季節感を出す等行っている。	リビングや廊下に、利用者と一緒に作ったつるし飾りやカレンダー、行事の写真を飾っている。花を飾るなどして季節を感じられるようにしている。リビングにはソファを置き、天窓からは自然の光を入れ、利用者が心地よく、くつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの前で過ごしたり、廊下へ出たりし自由に移動できるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物などがあれば持参していただき、本人が落ち着いた生活環境になるよう努力している。	利用者がそれぞれに馴染みの物を持ち込んでいる。テレビ、空気清浄器、時計、好みの写真など、気に入った物をたくさん持ち込み、好みの場所に配置して、本人が居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示が理解できないものであるなら、理解していただけるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人 香徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岐阜県関市平成通2丁目7番12号		
自己評価作成日	平成29年10月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai&amp;2017_022_kani_tru&amp;sl_gvosyoCd=2170200345-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si onOd=02">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai&amp;2017_022_kani_tru&amp;sl_gvosyoCd=2170200345-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si onOd=02</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族と利用者様と共に、穏やかな生活を過ごしていただける施設を目指しています。最期を安らかにいられるよう、家族と共に看取りを行っています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『わたしたちはすべてのかたに喜んでいただけるヘルスケアを提供します』 ・利用者が満足できるサービスを提供します		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに参加。 地域の小学校の運動会に参加。 地域の保育所の定期訪問。 事業所の行事の呼びかけ。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、グループホームはどのような方が入居できるのか等の質問に応じ、認知症の理解を深めている。 小学校との交流により福祉教育を目指す。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の利用者様状況や施設における活動を報告し意見を聞き、地域支援の向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼。 清掃ボランティア、市長の訪問等。 災害時の連絡。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の方と相談しながら、安全・安心の視点でケアに取り組んでいる。 職員と共に外出できるよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い防止に努めている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村からの成年後見制度の学習会の案内を職員に伝え、興味を持ってもらう。研修で施設で活用する成年後見制度を学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談時に書類を提示し、説明を行い疑問点はその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見についての意見箱を設置している。苦情窓口の提示を書面で説明している。ご意見をカンファレンスで共有し対策を取っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度、全体カンファレンスや委員会活動時に意見や提案等を取り入れている。半年に1回の人事考課面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、目標を持って働き、半期に一度の人事考課面接を実施している。新人介護職員に対して、研修会を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員教育プログラムをもとに、新入職者・中途入職者研修を実施し、入職後はコミュニケーション会等実施している。また、研修会等がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関市の連絡会議に参加する等、ネットワーク作りに努力している。 関市内グループホーム大運動会への参加。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より、どのような生活環境であったかを聞き取り、本人が不安なく生活できる様に要望をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや、本人・家族にとってどのようなことが不安なのか、どうしたらいいのかをよくお聞きし、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談時に、現状をよくお聞きし、アセスメントし、他事業所相談、紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所で手伝おうという気持ちのある方は手伝ってもらい、一緒に洗濯物等をたたんでもらったりしている。暮らしの中での会話を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時や外出時におしゃれをたしなむ方に対して積極的に家族に関わって頂くよう支援している。ご家族に、ご利用者様の日頃の生活の様子をお伝えしている。また、家族会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所時には居室にてゆっくり対面していただけるようお茶をお持ちしたりして和んでいただく。時には外出の機会を設け、馴染みの場所へ行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのことをよく把握した上で、それぞれに良い関係ができるよう配慮している。利用者同士の話ができるよう、座る席など配慮を行っている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、他施設への訪問を行ったりし状況を把握したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような希望があるのか尋ね、本人にとって厳しい場合は家族の想いを聞き合うように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれた場所、生育歴等を尋ねたり、今に至る迄の環境をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝や夕方のミーティングで職員が情報を共有し、一人ひとりのケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人についてのアセスメントをしっかりと行い、定期的にモニタリングを行っており、ケアプラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを開催し、情報共有、職員間の報告、連絡、相談をしっかりと行い、ケアプランにつなげている。ケアプランの内容を日々記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出困難で理容等など御希望の方については、理美容店と交渉し来所していただいている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、幼稚園交流、民生委員の来所など、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望されるかかりつけ医と連携し、相談しながら一人ひとり対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があった場合には、訪問看護師に相談し適切な処置がとれる体制にしている。また、日頃の様子を定期的に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、地域連携室と状況把握を行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回面談時に施設の方針を説明し、終末期のあり方を家族と話し合い、書面で提示してもらっている。その方針にしたがって支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、その都度体得するよう努めていく。(BLS研修会)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも災害時の話し合いもを行い、カンファ等で職員に伝える。地域住民を巻きこんだ避難訓練を計画している。グループ内連携にも力を入れている。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪問時は必ずノックし、声かけをしながら訪室する等気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何か希望された時は、希望に沿うように配慮し、自己決定できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日のリズムを把握した上で、希望に沿う事ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	タンスより洋服を選んでいただく等声かけをしている。ご家族のニーズも聞き、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や体調を配慮し、食事前後の台拭きなどの食事の準備・片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カルテにて摂取量を記録し、状態把握ができるようになってきている。好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを実施。その人に応じた口腔ケアを行っている(口腔ケアティッシュやスポンジなど)。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握するように努めている。ケア変更時には、検討会を実施し、ご家族に意見を求めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に牛乳を提供するなど個別的なケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽が色々あるので、その時により本人の希望に沿えるよう入浴していただく。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況を把握し、日中でも横になれるよう声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が管理のもと薬剤情報が閲覧できる状態であり、主治医とも連携し、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業でお手伝いしていただける方は積極的に参加していただいたり、ボランティアの方がみえた時には参加してもらえるように声をかける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望により、一緒に外へ散歩している。ご家族にご本人の意向をお伝えし、外出の機会を作るなど支援している。		

グループホーム あさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について個別に対応している。買い物時には、ご自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして欲しいという御希望の方には、電話をかける等対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花がある時は季節の花を飾ったり、ちぎり絵などで季節感を出す等行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの前で過ごしたり、廊下へ出たりし自由に移動できるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物などがあれば持参していただき、本人が落ち着いた生活環境になるよう努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示が理解できないものであるなら、理解していただけるよう工夫している。		